

故を温ずねて新しを知る

現在、伝統のある地域や地方都市で過疎化や伝統建築と新しく造られた建築との共存が問題となっている。このような地域では、箱形のビルが無造作に昔ながらの家の間が問題となっている。このような地域では、箱形のビルが無造作に昔ながらの家の間が散らばっており、日本古来の街並みや風景が失われていると感じる。この問題を考えたとき、伝統のある日本の思想、様式、技法、技能に学んだ新しい建築を考え、地域の要所に建てることで伝統的な建築と共存させて地域の活性化問題を解決する。日本古来の知恵や物の中から、日本独自の折り紙を建築に取り入れ、空間をつくる。このプロジェクトではユニット折り紙という考え方をを用いる。ユニット折り紙とは「何枚もの紙を同じ形に折って、それらを組み合わせ、一つの作品を作りあげる」というものでユニットを木材で作り、フレームを自由に組み合わせて空間をつくることで日本の伝統的あり新しい建築がうまれると考えた。また、ユニットを容易に外すことができ再利用にも適している。